

## 第 32 回 東海村地域公共交通会議 会議録

【日 時】	令和 5 年 6 月 23 日(金) 10 時 00 分～11 時 10 分
【場 所】	東海村役場原子力視察研修室
【出席者委員】	出席 17 名(うち代理 3 名)／欠席 6 名

### 1. 開会

#### 2. あいさつ

○萩谷会長

皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、第 32 回の東海地域公共交通会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度は、会議の委員 5 名の方々にご異動等がございました。新たに委員になられた方々におかれましては、委員就任にご快諾いただきましたことをこの場をお借りして、お礼を申し上げたいと思います。昨年度から会議に参加いただいている委員におかれましても、引き続きお力添えをいただきながら進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

なお、副会長を務めていただいた、岸三男委員ですが、本年 2 月 19 日にご逝去されました。岸副会長におかれましては、平成 17 年に本会議の前身である、デマンド交通の立ち上げ時に組織した「デマンド交通運行委員会」の委員として就任していただいて以来、約 18 年にわたり本村の地域公共交通施策にご尽力を賜りました。ここに謹んで哀悼の意を表したいと思います。

さて、本村の地域公共交通の状況でございますが、詳細は、この後担当から報告がありますが、コロナ禍から人流や消費行動に回復の兆しが見られまして、令和 4 年度の本村の路線バス及びデマンドタクシーの利用者数は、前年度同期を上回る水準となっております。令和 5 年度に入ってから、新型コロナの位置づけが 5 類になったことから、普段通りの生活ができるようになったことで、さらに利用者数が増えていくものと想定しているところであります。デマンドタクシーにおいては、配車効率の向上やキャンセル数の増加などといった課題の解決は、急務になってくるものと考えております。委員の皆さまの忌憚のないご意見を頂戴しながら、解決に向けて取り組んでまいりたいと考えているところです。

本日は、本村を走るバス、デマンドタクシーの利用状況のご報告及び AI 配車システムの概要説明のほか、国庫補助事業活用のため、地域内フィーダー系統確保維持計画の審議を議題としております。

委員の皆さまの闊達(かつたつ)な御議論をお願いいたしまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

### 3. 報告 (1)公共交通の利用状況について

事務局から配付資料に基づき説明。

(質疑等)

【任田委員】

資料1-2「地域公共交通の輸送実績 月別利用者数等一覧」を見ていただいて、令和元年度から比較して、令和4年度は増加に転じているということで、非常にいい数字である。令和元年度は年度末にコロナの影響を受けたが、それでもほぼ100%戻っていることは、東海村の方々に利用いただいているということで非常にありがたい。茨城交通全体でみると、エリアによってまちまちだが、おおよそ80～85%なので、東海村の利用増は大変ありがたい。

【舛井委員】

5月8日から新型コロナが5類になったが、予防しながらタクシーを運行している。最近、病院等から発熱している患者やコロナ感染者の送迎について問い合わせを受けることが多くなっている。これまで車内ではビニールシートを活用していたが、撤去したため、現在乗務員と協議しながら対策を検討している。村民の利便性向上のため、努力していく。引き続きよろしくお願いする。

【吉成委員】

社協としてデマンドタクシーの委託を受けており、これまで円滑な事業運行ができているが、利用実績は、コロナ禍前までは戻っていない状況である。オペレーターの視点でいうと、今後の検討課題にあるが、利用者の半数が福祉的配慮を必要とする方ということで、知的障がいや精神障がいへの特別な配慮であったり、予約を忘れてしまう方も多い。小学生の塾の送迎等の利用も多く、時間通りに来ないケースがある。それぞれ配慮をしながら運行しているため、効率化向上のため、AI配車システムの導入は良いが、現在のアナログ式によって、個別対応が可能となっていることもある。ここが課題として、今後考えていく必要があると思っている。

報告 (2) AI配車システムについて

事務局から配付資料に基づき説明。

(質疑等)

【任田委員】

視察した自治体のアプリ利用率どの程度か。

【事務局】

利用者の1割を切るぐらいと聞いている。

【任田委員】

高萩市のデマンドバスの運行について、実証実験を始めてから2年ぐらい経つが、当初20～30%のアプリ利用率だったが、今はやっと45%辺りまできた。70代の利用が一番多いが、その層で2割行くかといったところ。80代は1割、60代は3～4割であり、利用促進には時間と労力がかかるが、効率化のため進めたいところ。参考までに。

【松本委員】

視察自治体のシステムはどちらも同じか。

【事務局】

異なっており、喜多方市はネクスト・モビリティという福岡にある会社、紫波町は未来シェアという青森や北海道方面の会社である。

【松本委員】

どちらのシステムが良いと感じたか。

【事務局】

率直に言うと、ネクスト・モビリティはシステムのにも人間的にもサポートをしてくれる。交通計画の策定支援もしてくれる。あとは費用面で、といったところ。

【松本委員】

資料で示されているスケジュールは大雑把だが、内部では進捗管理ができるスケジュールを持っているのか。

【事務局】

持っている。既に導入している自治体のスケジュールを入手し、それをベースに、より細かいものを作成している。今月から来月にかけて仕様書を固めるため、現在 4 社のベンダーと接触している。契約はプロポーザル方式を考えているため、仕様の中身を特定の業者しか扱えないものにならないよう、微調整中である。

【松本委員】

仕様書の作成に当たり、住民の声を反映することは想定しているか。

【事務局】

意見を求めると、声の大きい方に偏ってしまうため、常東タクシー様の意見聞きながら進めていくが、住民からは、実際に運行してから、意見を聴取しつつ、都度、反映できるように微修正を加えていきたいと思っている。

【松本委員】

説明の中で、AIシステムを導入すると、タクシーを 1 台減らせるとの話があったが、なぜか。

【事務局】

単純に、現在の配車スケジュールを、システムの導入により短縮できるということ。1 台分の余白が生まれるということ。実際にシステムを導入しても、今後の需要増に対応していくため、タクシーの台数を減らすことは想定していない。

【松本委員】

どうすれば利用増に繋がるかも考えていると思うので、引き続きAI配車システムの導入について進めていただければと思う。

【河野委員】

この事業は、本来弱者を救済するためのものなので、ネットを使えない高齢者が大半で、高齢化や免許返納でどんどん増えていく中、ネットやアプリの利用促進について対策をとる必要がある。弱者が置き去りにされないよう、しっかり考慮して進めてほしい。

【事務局】

今の電話予約は今後も続けていく。スマホの操作方法については、村の地域戦略課で現在講

座等を実施しているため、産業政策課も加わっていきたいと思っている。地道だが、スマホの利用促進を図っていきたい。

【河野委員】

喜多方市のAI配車について、1分程度で完了しているが、村は5～10分程度かかっているとのことだが、この違いは。

【事務局】

今はオペレーターは、紙に書いて配車を組んでいるため、時間がかかっている。その違いである。

【山田委員】

前回も話したが、使いながら直していくことは重要で、業者選定は実績も評価に加えて選考する必要がある。導入市町村の中で、実際にどういった声があり、どの様に反映したかも調べていただきたい。

#### 4. 議題 地域内フィーダー系統確保維持計画について ⇒了承

事務局から配付資料に基づき説明。

(質疑等)

【國下委員】

補助金の関係で、交通会議の設置や補助金に関して、地域公共交通の活性化及び再生化に関する法律の改正が令和5年度に予定されており、国会の審議が通り、4月末に公布された。秋頃に施行となる。その中で新たに新制度が創設され、フィーダー系統補助金と同じ地域公共交通確保維持事業の中に、エリア一括協定運行の補助金や社会資本整備総合交付金に地域公共交通再構築事業が創成された。内容は国土交通省で作成中なので、完成したら送付させていただく。活用の検討をお願いする。

#### 5. その他

事務局から、配付資料に基づき、今後のスケジュールについて説明。

#### 6. 閉 会